

三井物産環境基金 2011年度 復興助成（第2回募集）「研究助成」助成案件一覧

分野	団体名	代表者	案件名	案件概要	助成期間	助成金額 (千円)
生物多様性	国立大学法人 東京大学	海洋生態系動態部門教授 津田 敦	津波が大槌湾生態系に与えた影響、および回復過程に関する研究	本研究は潜水調査、プランクトン調査および環境調査を、定期的に行うことによって、重要水産生物の損失と回復過程を解明し、種苗放流、漁場造成、養殖施設の再建などに対して適切な施策を提言する。	2年 9ヶ月	24,183
生物多様性	国立大学法人 東京大学 生産技術研究所	海洋工学国際研究センター 特任教授 Thornton Blair	広域にわたる海底土の連続的ガンマ線現場計測技術の開発	本研究では、海底土の放射線量を効率的に調査する手法を研究開発し、原発事故によって海底に放出された放射性物質の実態を広いスケールで詳細に把握する。本手法を用いて計画的に調査を実施し、時間によってその蓄積がどのように変化するかを解明することを目的とする。	3年 2ヶ月	13,992
持続可能社会	国立大学法人 福島大学	共生システム理工学類教授 佐藤 理夫	バイオマス資源循環活用システムに与える放射性物質の影響の解明と回避策の検討	福島県は豊かな自然の恵みを活かし、畜産廃棄物や生ごみを堆肥化して水田や畑で活用するといった循環型農業を進めてきていた。原発事故により県土に放射性物質が降り注いだため、バイオマス資源の循環活用に多くの影響が与えることが予想される。循環型農業を維持するため、堆肥化を中心とするバイオマス資源循環に放射性物質が与える影響を解明し、悪影響を回避する方策の検討を行う。	3年 6ヶ月	10,222
持続可能社会	学校法人 東京理科大学	理工学部土木工学科准教授 二瓶 泰雄	海岸砂丘を有効活用した環境防災型沿岸街づくりの提案	本研究では、海岸砂丘を有効活用した環境防災型沿岸街づくりを提案することを目的とする。この成果に基づいて、今回被災した平野部の復興対策を提言することに加えて、砂浜海岸を有する様々な沿岸部の街づくり指針を提示する。	3年 6ヶ月	13,273
持続可能社会	国立大学法人 福島大学 災害復興研究所	行政政策学類准教授 丹波 史紀	東日本大震災にともなう福島県の広域避難者に対する緊急実態調査と生活再建に関する研究	本研究では、広域避難した被災者を対象に大規模調査を実施する。そして、ふるさとへ帰る意志をつなぎ持続可能な地域社会の実現に向けた取り組みを進めていく。調査では、①ふるさとへ帰る意志、②就労・学校・住居・生活費等の当面の避難生活における課題、③避難生活における家族形態の変化、④複数回避難した経過、⑤今後の見通しなどを中心に調査する。調査結果をふまえ、各都道府県に「被災者支援センター」を開設する。	2年 8ヶ月	18,634
持続可能社会	国立大学法人 神戸大学	人間発達環境学研究科教授 平山 洋介	東日本大震災からの生活再建と住宅・都市復興	本研究は、東日本大震災からの復興という課題に関して、生活再建を支える住宅・都市復興の必要という観点から、被災者の実態調査を実施し、それにもとづく復興政策の評価分析によって、その改善に貢献しようとするものである。被災地域全体の状況をもとに、同時に、岩手県・釜石市をケーススタディの対象とし、そこでの生活再建と住宅・都市復興の推移実態を明らかにする。	1年 2ヶ月	5,591

合 計： 6件

85,895千円

【分野】

気候変動＝地球気候変動問題

水産資源・食料＝水産資源の保護・食料確保

表土・森林＝表土の保全・森林の保護

エネルギー＝エネルギー問題

水資源＝水資源の保全

生物多様性＝生物多様性及び生態系の保全

持続可能社会＝持続可能な社会の構築